

Knock on the door



vol. 1 [卯月・皐月の扉]

1. 心のドアをノックする

5+1の約束（心のドアのノックの仕方）

- ①あいさつをきちんとする。 →できるだけ笑顔で。心のドアをノックしよう！
- ②他人の良いところを見る。 →良いところが見えればその人を好きになれる。
- ③話を聞く →相手の言葉をさえぎらない。最後まで話を聞いてみる。
- ④小さなことに感謝する →自分は常に他人に支えられている。
- ⑤他人のためになることをしてみる →以外と難しいけどやるとものすごい充実感。

(+1)：教員は生徒が①～⑤をやれるよう自らが手本となり、全力でサポートする。

心がければ
扉は開くの。



2. 気づきの扉

私の家庭教師時代の教え子に、A君という中学一年生がいた。彼は小学生の時、原因不明の足の病気で長く学校を休んだため、学校の勉強に遅れが生じてしまい、勉強嫌いになり、不登校気味になった経験を持っていた。そんな彼を心配して、両親は家庭教師をつけたのだが、彼が勉強に対してものすごい嫌悪感を持っているために家庭教師達が長く続かなかった。そのため、その頃から異端児だった(笑)私に白羽の矢が立ち、彼の担当となった。訪問した最初の日は予想通り、散々なものだった。一家になかなか帰ってこない、帰ってき

でも車くるまに閉じこもり出でてこない、家に入いってもトイレに閉じこもり出でてこない。—そんな彼かれだったが、私わたしが彼の妹いもうとと楽しそうにゲーム感覚かんかくの勉強べんきょうをしている声こえを聞きいて、さながら天照大神あまてらすおみのように、トイレという心こころの岩戸いわとを開あけて出てくるようになった。やっと一緒いっしょに勉強べんきょうをやるようになった頃ころ、いつものように妹いもうとを交まじえて勉強べんきょうという名の遊びあそびをしていたのだが、A君くんは順番じゅんばんが待まちてない。自分勝手じぶんかってに物事ものごとを進めようとする。そんな彼かれを両親りょうしんは叱しかってとかめるのだが、頭あたまごなしに言う両親りょうしんの言葉ことばではいまいち効き目ききめがない。そこで私わたしはしばらく考かんがえ、物語ものがたりを作つくることにした。前まえの授業じゅぎょうで、絵本えほんの読よみ聞きかせや物語ものがたり作りをしていたので、戒めいましめというのではなく、先生せんせいの例れいとして紹しょう介かいした。その効果こうかがあったのかどうかは分からないが、A君くんは以前いぜんよりいいこになった。その物語ものがたりは以下のものである。

ちい しま ものがたり 小さな島の物語 ～Little Island Story～

南みなみのはてのずっとはて、ちい しま 島しまがありました。
あんまり小さい島しまなので、ひとりひとりがいやしません。
そこにいたのはたったの2匹ひき、お猿さるのモン太たと小鳥ことりのピーたん。
モン太たは得意とくいの木登りきのぼで、椰子やしの実み取とって食たべていた。
ピーたんカワセミ泳およぐの上手じょうず、魚さかなを取とって食たべていた。
あるとき嵐あらしがやってきて、椰子やしの木全部きぜんぶ折おれちゃった。
食たべ物もの無なくて泣ないていたモン太たにピーたん 魚さかなをあげた。
「こまったときはお互たがい様さまよ。」優しいピーたん 魚さかなをあげた。
しばらくたってまた木きが生はええて、椰子やしの実み取とれるようになったころ
今度はしばらく日照りひでが続き、魚さかなが全然ぜんぜん取とれなくなった。
けれどモン太たはピーたん、椰子やしの実み一つもあげなかった。
「だって、僕ぼくが全部ぜんぶ食たべたいのだから。」いやいやモン太たは椰子やしの実みあげない。
食たべ物もの無なくてひもじくて、小鳥ことりのピーたん死しんじやった。
またまた嵐あらしがやってきて、椰子やしの木全部きぜんぶ折おれたとき
モン太たはまたまた泣ないたけど、優しいピーたんもういない。
いまさらいくら泣ないたって、優しいピーたんもういない。

きみ こころ なに かん かんそう ま きょういくそうだんがかりしゅにん あ べ しんいちろう
君たちの心こころにも何か感かんじるものはあったらどうか？感想かんそう待まちっています。教育相談係主任きょういくそうだんがかりしゅにん 阿部真一郎あ べ しんいちろう